

令和元年度 第2回にしお男女共同参画市民会議 会議報告書

日時	令和元年12月13日(金) 午後1時30分～午後3時
場所	西尾市役所2階 21会議室
委員	出席者 にしお男女共同参画市民会議委員：赤堀慎吾委員始め8名 アドバイザー：中京大学教授 柳本 祐加子氏
	欠席者 加藤晴子、鈴木順充
事務局	永山課長、大竹主査、黒野主事
傍聴人	0名

※会議公開に関する件・・・会議は公開である旨報告（平成25年6月28日の会議で決定）

1 あいさつ

2 議 題

(1) 西尾市パートナーシップ宣誓制度等多様な性に関する取り組みについて

(2) 西尾市オリジナル ALLY マークの選定について

3 その他

■会議概要

1. あいさつ

課長あいさつ

2. 議題

(1) 西尾市パートナーシップ宣誓制度等多様な性に関する取り組みについて

<事務局より以下の内容について説明>

- ・パートナーシップ宣誓制度は、全国で28団体導入。西尾市は25番目。現在宣誓数は0件だが、1件問い合わせがあり。
- ・パートナーシップ宣誓制度についての概要を説明。導入したきっかけは、市長の施政方針のスローガン「多様性の輝く共生のまちづくり」の取組みの一環として。
- ・西尾市パートナーシップ宣誓制度利用の手引きの説明
- ・市内民間企業の例として、三河湾リゾートリンクスでは、LGBTに関する教育プログラムがあり、ウエディング事業でLGBTパートナーズウエディングプランを展開している。
- ・市民レベルではまだまだ多様な性に関する知識がまだまだ進んでいないため、「多様な性、知っていますか」、「西尾市 ALLY シンボルマーク募集」のチラシ配布等で啓発している。
- ・市民レベルでどれくらい認知しているか男女共同参画パネル展においてLGBTに関するアンケートを実施した。その結果、70%近くの人がLGBTという言葉を知っているという結果が出た。また、ALLYという言葉についてはまだまだ知られていない状況。

知人、家族にLGBTがいる場合、どう思うかという問いには、知人には44%、家族には66%の人が抵抗がある、少し抵抗があるとして、身内に対して抵抗感を感じる人が多いという一方で、困っている性的少数者の方がいたら力になりたいと思いますかという人は74%の人が力になりたいという結果が出た。以前、西尾東高校で若年者啓発事業を行った際、高校生の方たちはLGBTに対する偏見が少ない、ALLYになりたいと意見が多かった。

- ・今後の啓発事業として、椙山女学園大学人間関係学部の藤原教授をお呼びして市職員向け研修を実施予定。

<委員・アドバイザーからの意見等>

柳本先生：若年者の方の自由意見を確認したかった。男女共同参画プラン改訂版策定の時の若年者調査もそうだったが、若年者の意見は思いがけないものがある。

(2) 西尾市オリジナル ALLY マークの選定について

<事務局より以下の内容について説明>

- ・伊賀市に視察に行った際、ALLYのマークを使い、啓発活動をしていたのに影響を受け、西尾市オリジナルのALLYシンボルマークの募集を企画した。
- ・応募作品は137作品。この中から本日の会議で皆様のお知恵を借りて決定したい。
- ・チラシに基づき、募集条件、選考・賞について、マークの使い道について説明。ピンバッチ、ティッシュ、などのグッズ、啓発チラシ等に使用したい。
- ・マーク選定のための投票について説明。
- ・水内先生（グラフィックデザインが専門。ソーシャルデザインにも関わる）より説明
135作品という多くの作品が提出されたのは喜ばしい。募集要件に適合しているかどうかをまず選定の基準とした。ほかに考慮したことは、図柄で西尾市を感じるもの、オリジナリティを感じられるものかどうか、縦・横組みそれぞれでの使用が想定できるかどうかということ、マークの横、下に文字を並べる場合が多いため、そのような作業ができるかどうか。様々な媒体での使用が展開できるものかどうかということである。

<委員からの推薦作品の確認>

- ・水内先生による選考外のものでもよいものがあれば委員のみなさまから挙げてほしい。
→特に委員からの推薦はなし

<投票（1回目）>

- ・資料No.5から良いと思うデザインを投票
→結果 A…3票、B…2票、C…1票、D…1票、E…2票、F…0票

<水内先生からの上位A、B、E各作品についての説明>

Aは、6色が混じり合っただけで包摂性を感じられるオリジナリティのある作品。手書きのため、今の状態では見やすいが、使用する場合、配慮が必要。

Bは、西尾市をかたどったオリジナリティのある形状。文字が黒で冷たい印象のため、検討する必要あり。

Eは、茶筌で表現されているのが西尾らしい。マークの中に文字が入っているのを出した方がよい。

<投票した理由等について意見交換>

尾崎委員：Aを選んだが、パステル色がよい、先生の説明から選んだ。

事務局：手書きの作品のため、手が加わると風合いが変わることも加味していただきたい。

嶋崎委員：小さい子の絵もほのぼのしていて心が満たされる。小さいころからみんな同じだという意識が感じられる。見る人も癒されるし、心が動かされる。

事務局：啓発チラシに利用するなど、別の利用方法を考えていきたい。

副会長：Aは、遠目でみて混じり合っているのがわかるかどうか。この風合いを残したものになるといい。

柳本先生：それぞれの色は色が残っていてまじりあって一つになるのではなく、西尾ということでは。

鈴木委員：Cを選んだ。自分が女性ということもありバラのデザインを選んだ。

加納委員：Bを選んだ。西尾らしくピンバッチにすると男女ともに使いやすいデザイン。

寺島委員：Dを選んだ。ピンバッチになることを考慮した。

<投票（2回目）>

A、B、Eから良いと思う作品を1つ投票

→結果 A…5票、B…4票、E…0票

よってAに決定（1月下旬から2月にホームページで発表）

3. その他

<第2回ばらネットセミナー・男女共同参画サテライトセミナーについて案内>

<柳本先生のお話>

フィンランドで34歳の女性の首相が誕生。スウェーデンでは、グretaさんが活動2015年から第5次男女共同参画基本計画が策定されている。

全国各地で公聴会が開催されている。皆さんも関心を持ってみていただきたい。

今夏、児童虐待法が一部改正。DV防止法が来年度に改正予定。今回の改正により、児童虐待と密接な関連があるとされるDVの被害者の適切な保護が行われるよう、相互に連携・協力すべき関係機関として児童相談所が明確化される。

<委員より質問・意見>

大島委員：当事者の方に聴き取りはされているか。

事務局：ASTAさんに紹介された当事者の方1名に聴き取りをしている。

大島委員：立場によってとらえ方が違う。親が我が子が当事者であればということを考えると、その子が幸せになれるかどうか不安になるか当然である。

事務局：話題になったことによって、制度ができたことによって居心地が悪くなるという問題も出ることが考えられる。パートナーシップ宣誓制度はLGBTの方の選択肢を増やすことだが、周囲の理解が得られなければLGBTの方たちは生きづらいまま。制度を整えるだけでなく基本的な知識の啓発するにあたり、まず、市の職員の研修から始め、ばらネットと協働で進めたい。

以上